

「学校給食への地場産物の利用拡大に関する意見交換会」

山形農政事務所

6月23日（火）山形市自治会館において、山形県との共催により、「学校給食への地場産物の利用拡大に関する意見交換会」を開催しました。

管内3市2町の農林関係者、教育関係者、及び学校給食関係者の出席を得て、総勢24名にて、学校給食における地場農産物利用の実態と課題について活発な議論が行われました。また、具体的な事務についての課題及び改善点について活発な議論が交わされるなど、和やかな雰囲気の中でも実務的で熱心な意見交換会となりました。

＜事例発表＞

「協定による学校給食用食材の委託栽培について」

山形市教育委員会学校給食センター
所長 門脇 孝一 氏

一日2万食強の給食を提供する山形市学校給食センターにおいてタマネギ、ジャガイモ、ニンジンの3品目について、各営農組織と協定を結び安定的な供給を受けることとなった経過と食育の取組の事例発表により意見交換会への導入としました。



事例発表をする門脇氏



意見交換時の会場

＜意見交換＞

進行：山形農政事務所消費・安全部
消費生活課長 阿部

意見交換では、出席者から各市町での取組事例の発表、また事例発表者への具体的内容への質問、新たな取組を検討中の町が先進的立場の町との間に事務的な情報交換を行う場となるなど、活気にあふれた会議になりました。また、県教育庁からは、栄養教諭と学校栄養士の会議で得られた情報の提供があり、現場での前向きな想いと農政サイドとの連携の重要性やトップ（首長）の意識の重要性などが浮き彫りにされました。

行政区域の壁等、地産地消を取りまく現実的な限界も明確になり今後の大きな課題となりました。

これらの意見を受け、山形県と総括の後、可能なものから少しでも前進させるべく生産者サイドへの働きかけ等を検討しながらより一層の取組の拡大を確認し合いました。



取組事例を発表する出席者

